



いきいきプラス いわて

岩手県高齢者総合支援センター

キオクシアアイーナ相談窓口を開設

令和7年4月1日岩手県から委託を受け、いわて県民情報交流センター キオクシアアイーナ6階「高齢者活動交流プラザ」において、高齢者の社会貢献活動についての相談を受け付けます。



希望に沿った活動団体の紹介

活動団体の運営方法の助言

活動を行うための助成金の情報提供

市町村や地域包括支援センターからの生活支援体制整備事業に関する相談

ご相談
ください！

お待ちして
います♪



高齢者の交流の場を作りたい。
助成金情報を教えてほしい。

地域の人とやってみたい活動がある。
どこでどんな活動をしているのか知りたい。

などのご相談をお受けしています！



窓口開設日

[営業時間] 9:00 - 16:00 ※令和8年4月1日より相談窓口がかわります

[開設日] 火・木曜日 (12時~13時、祝日、年末年始は除く)

キオクシアアイーナ
ホームページ



情報誌や相談窓口に関する問合せ

☎019-625-7490

公益財団法人いきいき岩手支援財団
岩手県高齢者総合支援センター

特集

～ ご近所福祉クリエイター 酒井 保 先生 ～

酒井先生にお話を伺いました！

酒井先生は、社会福祉協議会勤務時代に知り合った宮城県の方とのご縁で、東日本大震災の復興支援のため三陸に来られました。震災を目の当たりにし、仮設住宅に寝泊まりして支援を行った経験をきっかけに、地域の支え合い活動や地域づくりに携わることとなりました。支え合い活動は、当時は制度ができるまでの補助的な活動としての取り組みでしたが、これからは、要介護1～2が介護保険から外され、総合事業に移行することになることも予想されることから、高齢者の社会参加を通じた介護予防や地域での支え合い活動がますます重要になるとのことです。

【プロフィール】1961年広島県生まれ。知的障がい者施設職員、社会福祉協議会福祉活動専門員、認知症グループホーム・小規模多機能施設の施設長職を経て、2014年8月に「ご近所福祉クリエイション」を創設。10年程前に陸前高田市の「地域包括ケアコーディネーター」を2年間ほど務めた経験がある。現在は広島と仙台を拠点として、講演・執筆活動を行っている。



令和7年度岩手県高齢者社会貢献活動セミナー（R7.10.6 岩手教育会館）

基調講演テーマ

「地域でつながり、支えあう社会
貢献活動の促進を目指して
～みんなで考えよう街づくり・
地域づくり～」



基調講演は、酒井先生の「あなたの地域は支え合っていますか？」との問い掛けから始まりました。支え合いとは文字どおりお互いに支え“合う”ものだが、大体は支える側からの視点でしか語られないもの。支え合っているという思い込みである。全ての人にやがて老いは来る。老いた時にあなたは「助けて」と言えますか？と私たちに問い掛けられました。ある機関の調査によれば「助けて」と言えるのは要支援者の3～5%しかいないと言われています。国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が後期高齢者となっている現在、私たちは支援される立場に必ずなることを前提とした仕組みづくりや地域づくりが必要とされています。

続いて「健康で長生きしている人はどんな暮らしをしていると思いますか？」と問い掛けがありました。先生の答えは、多くの場合は“社会参加”をしている。社会性を有する人がその人なりの“役割”を持って活動することにより社会参加となる。社会性が低下すれば運動機能が低下し外出頻度が減り、健康寿命の延伸に影響することとなる、でした。まさに今日参加されている方々の普段の活動や生活そのものがフレイル予防につながるということです。

これまでの介護予防の姿は要介護状態にならないための介護予防だった。これからの姿は“地域で暮らし続けるための生活支援”であり、全ての高齢者が暮らしをを整え、居場所や集いの場で支え合いながら社会参加を続けられるための地域づくりが、今求められていると言える、と最後にまとめていただきました。

令和7年度高齢者の社会貢献活動の促進のための情報交換会（2回開催）

【第1回】R7.10.7 ビッグルーフ滝沢

盛岡圏域で多様な社会貢献活動に取り組む住民主体の団体を対象に団体同士が情報交換を行い、市町社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと一緒に地域住民の活躍の場づくりについて考える情報交換会を開催しました。参加団体と主な活動は次のとおりです。

- ・乙部あやめ会（盛岡市）～生きがい健康交流会に保健師が参画
- ・柳沢ピンころクラブ（滝沢市）～座学や調理体験を通じた啓蒙
- ・チームオレンジたきざわ（滝沢市）～認知症カフェ、買い物支援
- ・担い手ほっころの会（滝沢市）～「居場所ほっころ」の運営
- ・シルバーガールズ（岩手町）～「カフェねまーれ」の運営、集い
- ・紫波なごみサークル（紫波町）～講座開催（ACP, ヨガ, シルリハ）

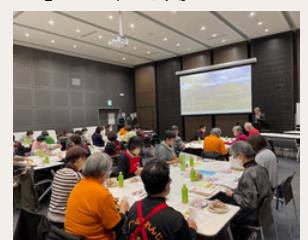
酒井先生から、グループワーク後の発表に対して「地域活動そのものが社会参加」「自然に助け合う行動が地域の自然治癒力として評価されるべき」と各団体の活動に対してエールをいただきました。

【第2回】R8.1.13 キオクシア・アイーナ

認知症の人と家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ「チームオレンジ」が現在県内に20か所以上立ち上がり、地域の実情に応じた活動を続けています。今回は、チームオレンジの中核を担うボランティアの皆さんが圏域を超えて交流できる場が必要という声を受けて情報交換会を開催しました。参加団体と当日の雰囲気は次のとおりです。

- ・チームおれんじ花巻（花巻市）～マルカンデパートでおしゃべり活動
- ・チームオレンジたかた（陸前高田市）～くつろぎサロン、知-ヨット-ツグ
- ・チームおれんじひろの（洋野町）～訪問型、移動型こびりっこ
- ・チームオレンジ矢巾（矢巾町）～総合事業訪問B、うっかり茶屋、パ化カフェ

各市町から40名超のボランティアが参加して会場内の熱気は最高潮。参加者より「他チームとのふれあいが元気のもと」「各地域の活動に個性があり取り入れたい」との声も聞かれました。



地域のわだい

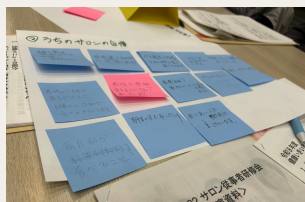
両日、酒井先生にご参加いただいています！

岩手町の岩手広域交流センタープラザあいに行ってきました！

令和7年度岩手町健康いきいきサロン従事者研修会 (R8.1.22)

岩手町が行っている「健康いきいきサロン」は、高齢者の方々が気の合った仲間との支え合いや繋がりが孤立感を防いで、心身の元気づくりのもととなることを目的として、平成14年から継続されている取り組みです。

酒井保先生から「つながりの必要性」についての講義のあと、各グループで自分のサロンの自慢できるところを紹介し合う「自慢比べワーク」を行いました。88歳参加女性からは、サロンの案内をパソコンで作成しているとの自慢発表があり、会場は大いに盛り上がりました。また、今日のような内容を全ての住民に知らせてほしいとの感想も寄せられるなど、多くの気づきのあった研修会となりました。



令和7年度岩手町さんあい（支え合い・助け合い・声かけ合い）交流会 (R8.1.23)

「さんあい交流会」は、3つの「あい」を行っている岩手町のボランティア団体が集まって、それぞれの活動報告を行って交流を深める情報交換会です。

今回は次の団体に参加していただきました。

～活動団体～

- ・傾聴ボランティア おひさま
- ・美育・食育ボランティア クレマチス
- ・読み聞かせボランティアおはなし☆きらきら☆
- ・シルリハの会
- ・シルバーガールズ
- ・合同会社イチカラ
- ・食育食堂「どんぐり山」



地域の方へインタビュー



社会貢献活動を行っている岩手町のボランティア団体にお話を聞きました。

ご協力ありがとうございました！

岩手町で食育食堂「どんぐり山」の代表を務める熊谷美枝さんにお話を聞きました！

Q 食育食堂とはどんな活動ですか？

A 0歳から100歳までをターゲットに、地域住民が集い交流を行うことができる場として2022年から活動を行っています。食の力を通して、仲間作りや地域コミュニティの活性化、子どもや高齢者の心身の健康づくりに取り組んでいます。30品目以上を使った野菜たっぷりの料理は栄養とボリューム満点です！

Q 地域の人々との関わりで感じることは？

A もともと岩手町の出身でしたが、千葉市に長く住んでおり、最近父の介護のために戻って来ました。知り合いがほとんどいませんでしたが、多くの地域の方々と知り合ってコミュニケーションを取りながら、助け合うことができます。

Q 食堂に来ていただいた方に対して気を付けていることはありますか？

A 参加した時に1人にならないように声かけをしています。また、ここが居やすい場所になるよう心掛けています。親子で和やかに食卓を囲んでいるのを見るのが楽しみです。

Q なにかを始めたいと思っている方にメッセージをお願いします。

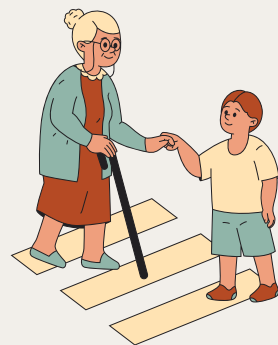
A やりたいなと思ったら、勇気をもって最初の一步を踏み出してみたと伝えたいです。



特集 ～令和7年版高齢社会白書～

日本の総人口は、1億2,380万人となっています。(令和6年10月1日現在) 65歳以上人口は、3,624万人となり、総人口に占める割合(高齢化率)も29.3%となりました。平均寿命は、男性81.09年、女性87.14年と延伸している現状にあります。(令和5年現在) それらの状況を踏まえて、高齢社会対策大綱が令和6年9月13日に閣議決定されました。

高齢者の割合が増える中で、持続可能な社会を築いていくため、若年世代から高齢者世代が『支える側』にも『支えられる側』にもなれる社会を目指すことが必要と明記されています。



【概要】高齢社会対策大綱(令和6年9月13日閣議決定)

目的及び基本的考え方

1. 大綱策定の目的

- 「高齢社会対策」は、高齢者を支えるための取組だけでなく、**高齢者の割合が大きくなる中で持続可能な社会を築いていくための取組**。
- 我が国は世界に類を見ないほどのスピードで高齢化が進み、今後更に進展(高齢化率: 29.1%(2023年)⇒38.7%(2070年))、人口構成や社会構造の変化に伴い、**経済社会の担い手の不足(生産年齢人口は2040年までに約1,200万人減少)、経済規模の縮小のほか、一人暮らしの高齢者の増加等のライフスタイルの変化や認知機能が低下する人の増加等に伴う様々な影響や課題が懸念**。
- 一方、我が国の平均寿命は世界で最も高い水準となり、高齢者の体力的な若返りも指摘。65歳以上の就業者は増加し続け、意欲も高い。**⇒年齢によって分け隔てられることなく、若年世代から高齢世代までの全ての人が、それぞれの状況に応じて「支える側」にも「支えられる側」にもなれる社会を目指し、全世代の人々が「超高齢社会」を構成する一員として、希望が持てる未来を切り拓いていくことが必要**。

2. 基本的考え方

- (1) **年齢に関わりなく希望に応じて活躍し続けられる経済社会の構築**
- (2) **一人暮らしの高齢者の増加等の環境変化に適切に対応し、多世代が共に安心して暮らせる社会の構築**
- (3) **高齢に伴う身体機能・認知機能の変化に対応したきめ細かな施策展開・社会システムの構築**

参考：政府広報オンライン 令和7年版高齢社会白書(全体版)

https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2025/zenbun/07pdf_index.html

いきいき岩手支援財団 助成金情報

いきいき岩手支援財団では、いわて保健福祉基金とご近所支え合い活動助成金の交付を行っています。詳細につきましては、当財団ホームページをご覧ください。

令和8年度助成事業の募集について

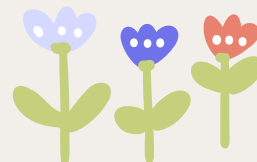
第1次募集は締め切りました。現在、第2次募集中です。



募集スケジュール

第2次募集 令和8年3月～4月20日(月)

※助成期間：令和8年7月～令和9年3月20日



【助成金に関する問合せ】

公益財団法人いきいき岩手支援財団 総務・公表課

☎ 019-626-0196

〒020-0015 盛岡市本町通三丁目19-1

岩手県福祉総合相談センター3階